

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2018年度 助成者)

作成日 2018年 9月 9日

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 氏名 (フリガナ) | 丹野 利紗 (タンノ リサ) |
| 研修先機関名 | Hawaii Tokai International College |
| 研修期間 | 2018年8月13日 (月) ~ 8月18日 (土) |
| 大学名 | 自治医科大学 |
| 学年 | 5年 |

まずはじめに、このような素晴らしい貴重なプログラムへの参加助成の機会をいただき誠にありがとうございました。5日間という短い期間だったのであつという間に終わってしまったのが残念なほど、非常に充実した研修でした。私は、来年度に大学で海外臨床実習を1か月間行うことが決まったため、せっかく海外の病院で研修することが決まったならその1か月間はできるだけより良いものにしたいと思い、そのためにはやはり英語で **history taking** や **case presentation** はできなければいけないと思って、応募、参加しました。私の目的とプログラムの内容は合致しており、私の思っていたもの以上の質の高い研修を行うことができました。

やはり、**history taking** と **case presentation** のスキルは確実に成長したと自信を持って言えます。そもそも英語でアウトプットする練習は日本にいるとなかなか出来ない上に、英語で **case presentation** をする際の基本的な雛形、文章を体系的に教えていただいたこと、問診をするときの上手な言い回しや英語特有の表現を学ぶことができたことはとても勉強になりました。また、ハワイ大学医学部の学生さんに模擬患者になってもらい **history taking**、そして、その後ハワイの医療現場で実際に活躍していらっしゃる先生の前で1対1で **case presentation** を指導していただけたのは、学んだことをさっそく応用する機会が反復して設けられたので、実践につながりました。また、細かく丁寧に指導・フィードバックしていただけたことはとても成長につながりました。朝から夜まで一日中スケジュールはしっかり詰まっていたのは、英語でアウトプットすることを求められる授業が多く、英語脳が鍛えられました。しかしその中でひとつ感じたのは、やはり、私は英語は好きなのですがどうしても **first language** ではないため、上手な英語表現は自然には出て来ないので実際にネイティブの英語をできるだけたくさん聞いて、真似ていくしかないと感じました。しかし、そうして習った・覚えた文章や表現も実際にその場で使っていく機会がたくさんあったので、その度にどんどん自分の実力があがるのを実感しましたし、確実に成長を感じました。このプログラムの内容は、日本には絶対経験することのできない内容だったと思います。

また、全国津々浦々から参加したメンバーも皆尊敬する人ばかりで、英語力のレベルはもとより積極的に様々な活動を行っているユニークな人が多く、国際関係に限らず今後の医師としてのキャリアパスに関する色々な情報共有もでき、とても刺激を受けました。プログラム中指導して下さった先生方にも大変お世話になり、先生方の貴重なお話は自分の将来の視野を広げ、考えを深めることができたので、このプログラムは自分の財産となりました。短い期間ではありましたが、この素晴らしい出会いに感謝しながらこれからもプログラムで得たことを忘れないよう日々励んでいくとともに、ぜひ海外 **BSL** に行く予定のある後輩には、このプログラムを自信を持っておすすめしたいです。